

## 2011年7月9日 広島県合同輸血療法委員会議事録

- 1 日 時 平成23年7月9日(土) 15:00~17:00
- 2 場 所 広島市南区松原町1-5  
ホテルグランヴィア広島 3階 飛鳥
- 3 出席者 <添付資料参照>
- 4 議 題 (1) 広島県合同輸血療法委員会の設置について  
(2) 基調講演「秋田県合同輸血療法委員会による血液製剤適正使用推進」  
(3) 広島県の状況  
(4) 年間活動計画
- 5 担当部署 広島県健康福祉局薬務課製薬振興グループ  
電話 082-513-3223

### 1 開会

#### ●事務局

定刻となりました。ただいまから広島県合同輸血療法委員会を開会いたします。開会にあたり、主催者を代表しまして、広島県から佐々木健康福祉局長が御挨拶を申し上げます。

#### ●健康福祉局長

みなさんこんにちは。県の健康福祉局長の佐々木でございます。本日はお忙しい中、土曜日にもかかわらずお集まりいただきありがとうございます。皆様方におかれましては、平素から血液製剤の適正使用の推進につきまして、格別の御理解と御協力をいただいております。この場を借りて、厚くお礼を申し上げます。本年、2月にこの合同輸血療法委員会の準備会を設置させていただきました。その際、正式にこの会の機構を立ち上げようと御了解をいただきまして、本日が正式の第1回の会合となります。この第1回の会合に当たりましては、来週全国知事会が開かれる秋田から面川先生においでいただき、この後御講演をいただくところであります。面川先生、お忙しい中広島においでいただきどうもありがとうございます。本県は、委員会の設置は、正直申しまして全国的に早い方ではございません。ですが、逆に言えば、だからこそ、他の県の良いところを取り入れ、結果的に広島が全国で一番良い取り組みをしていると言われるような県にしたいと思っておりますので、そのためには、本日お集まりの皆さんのこの場での議論、そして

何より平素からの取り組みが必要となります。ぜひ、本日はよく勉強し、よく議論し、そしてさらに良い取り組みは何かということ的成果として導き出していきたいと思えます。では、これが今後ずっと続く第1歩となりますので、やっぱり第1回の会議が良かったから広島の取り組みはいいよねと言われるようにぜひ活発な御議論をお願いします。本日はよろしくお願ひ致します。

#### ●事務局

ありがとうございます。それではここで本日の資料確認をさせていただきます。まず、次第、出席者名簿、配席図、これA4用紙で3枚ございます。それから資料の1としまして、広島県合同輸血療法委員会設置要綱、資料の2といたしまして、秋田県血液センター一面川先生の基調講演資料、資料3といたしまして血液製剤使用適正化に向けた広島県の取り組み、資料4といたしまして広島県における献血者の推移及び血液製剤の供給状況、資料5といたしまして平成23年度広島県合同輸血療法委員会の活動計画案、以上揃っておりますでしょうか。それでは、これより議題に入りたいと思えます。まず、合同輸血療法委員会の設置及び委員長等につきまして、私ども薬務課長の仲本から御説明いたしたいと思えます。

## 2 議題

### 議題1：広島県合同輸血療法委員会の設置について

#### ●仲本委員

はい、この委員会の設置等につきましては、先程局長の御挨拶にもございましたように本年2月の26日に開催をいたしました情報交換会での了解事項に基づいて進めてまいりました。資料1の当委員会設置要綱を御覧ください。先の情報交換会で御了承いただいたことを基にして、5月25日付で委員会を設置させていただきましたので御報告します。設置に際しましては、各医療機関、学識経験者及び関係団体などから就任していただいた委員会の皆様につきましては、名簿として添付しておりますので御覧ください。次に、設置要綱の第4条の規定でございますけれども、役員として委員長、副委員長、幹事を置くことになっております。この設置要綱の4条では、委員長、副委員長、幹事は委員の互選により定めるということになっております。ということで、委員の私から提案をさせていただきたいと思えます。まず、先程申し上げました委員長でございますけれども、この会議をより効果的に進め、また、議論をリードしていただくために、情報交換会で座長に就いていただきました広島文化学園大学の高田先生にお願いしたいと思えますが、いかがでしょうか。(一同 拍手) ありがとうございます。次に副委員長と幹事でございますが、血液製剤の使用に係る諸問題の検討等当委員会の目的に向けた取り組みを行うため、当事者となる医療機関の中から選出させていただくことが適切と考えておりまして、これから申し上げる方々にお願いしたいと思えます。まず、副委員長ですけれども広島大学病院輸血部長の藤井先生、それから幹事でございますが、広島赤

十字・原爆病院輸血部長の岩戸先生、それから同じく幹事でございますが、広島市民病院副院長の二宮先生、そして福山市民病院中央手術部長の小野先生、それから臨床検査技師の立場からということで、呉共済病院検査部輸血科の荒谷先生にお願いしたいと思います。以上御了承いただけますでしょうか。(一同 拍手) ありがとうございます。それではこれから役員として御就任していただく皆様から、一言ずつで結構ですので、自己紹介をお願い致します。まず、高田先生お願い致します。

●委員長

座ったままで失礼します。広島文化学園大学の高田でございます。僕は元々血液内科の出身でして、1994年から広島大学病院の輸血部をやって参りまして、現在は去年から文化学園大学でやっております。輸血学会はこの中では長いほうかなと思っております。ということで、務めさせていただきますので、よろしく申し上げます。

●仲本委員

ありがとうございました。続いて副委員長の広島大学病院輸血部長の藤井先生。

●藤井委員

委員長と同じように座って失礼いたします。広島大学病院の輸血部の藤井と申します。私も血液内科出身でありまして、卒業年度は91年度になります。97年から輸血部に移りまして、丸14年ということです。昨年、高田委員長の後任という形で、今は輸血部長として仕事をさせていただいております。若輩者ですけれども、皆さんよろしくお願い致します。

●仲本委員

それでは幹事として広島赤十字・原爆病院の岩戸先生。

●岩戸委員

幹事を拝命いたしました広島赤十字・原爆病院の輸血部におります岩戸でございます。私は臨床医でございまして、主に造血細胞移植を担当しておりますが、うちの病院は非常にたくさんの血液製剤をいただいて使っておりますので、今回のテーマである適正使用に向けて、まず頑張らなければならない病院の一つでございます。よろしく申し上げます。

●仲本委員

続きまして、広島市民病院の二宮先生。

●二宮委員

広島市民病院の外科の二宮でございます。専門は胃癌の治療で外科治療で輸血無で済ますことを目標としております。しかしながら、私は研究のテーマとして輸血に関係することを研究生のころからやっておりますので、輸血学会も非常に長い間入っております。なじみの深い会でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

●仲本委員

ありがとうございました。続きまして、福山市民病院の小野先生。

●小野委員

福山市民病院の中央手術部長をしております小野と申します。専門は麻酔科です。私の勤めております病院は救急救命センターでたくさんの外傷患者や火傷の患者が来てなかなか適正輸血の推進が難しいところなんですけれども、皆さんのお知恵を拝借しながら適正管理できるよう努力したいと思います。よろしくお願いします。

●仲本委員

ありがとうございました。最後に呉共済病院の荒谷先生。

●荒谷委員

呉共済病院の検査部の荒谷です。この度は、臨床検査技師として呉地区からぜひ一人出てくださーいということで、このような大役を選出していただきました。中規模病院の立場からの検査技師として、一生懸命頑張りますのでよろしくお願いします。

●仲本委員

ありがとうございました。それではこれからの議事進行の議長は要綱の第4条第1項によりまして、委員長の高田先生にお願いしたいと思います。どうかよろしくお願いします。

●委員長

はい、ではこれ以後の進行は私の方でさせていただきます。今日の御出席の皆さん方の一覧と配席表がございますので、御確認ください。それぞれ御紹介すべきだったんですけども配席表の方で御確認いただければと思います。早速これから基調講演をお願いしたいと思います。今日はわざわざ秋田県から面川先生に来ていただきました。面川先生の方からは資料にありますように「秋田県合同輸血療法委員会による血液製剤適正使用推進」との題で御講演をいただきます。面川先生について少し御紹介したいと思います。面川先生の御出身の県は私も知らないんですけども、1979年に東北大学を御卒業です。1989年に医学博士をお取になりました。昭和56年に東北大学病院で第1外科の方にお入りになりまして、昭和60年にはオハイオ州のクリーブランドクリニックの方に御留学になられまして、人工臓器の御研究をされております。1988年には秋田大学の外科の助手、そして1991年から輸血部に移られておりまして、講師ということです。ということでぼくより少し先輩になります。平成21年准教授、そして、その4月から秋田県の赤十字血液センターの所長として、現在まで御活躍中です。この間、全国の血液センターの所長に大学の輸血部の活躍をしていた人たちがどんどん引き抜かれて行ったんですけども、そのうちのお一人だろうという風に思っております。ということで早くから合同輸血療法委員会を県内で組織されてこられまして、その活動は学会でもお聞きしたことがございます。そういう流れで広島でも頑張ってくれということでお話しただけなのではないかと思っております。面川先生よろしくお願いします。

## 議題2：基調講演「秋田県合同輸血療法委員会による血液製剤適正使用推進」

### ●面川先生 講演

<添付資料参照>

### ●委員長

大変ありがとうございました。面川先生無しではできなかつたことではないかと、感心して聞かせていただきました。あるいは、私たちもこれはいっぱいやることもありそうだと思った次第であります。色々お聞きになりたいこともあるのではないかと思います。ぜひ、この機会で聞いてみたいという方、どうぞ挙手をお願いします。どうぞ、お名前を。

### ●鳥取県血液センター所長

輸血適正使用懇談会と合同輸血療法委員会の組織の違い等について

### ●仲本委員

この後でお話する県の取り組みの中で触れたいと思います。

### ●委員長

血液センターと医療機関との関係だったら、要するに医薬品会社とユーザーという関係に近いわけですね。そこに行政が入ることによって、オフィシャルなものにその要件がどうしても必要だろうと僕の方からは解釈いたしました。他にございませんでしょうか。今日は血液センターの集約化というような話はあまりありませんでしたが、これは今後大きなテーマでしょうか。

### ●面川先生

我々のところは、秋田県は実は今年の5月に製造部門が宮城で集約されましたので、それの前に対する説明というのか、合同輸血療法委員会のテーマとしては正直いいのかなという疑問もあるんです。これはセンターと医療機関との問題で、供給のサービスの問題が基本ですから。ただ、そういうことも紹介する時間も合同輸血療法委員会に我々血液センターが頂いているという形で報告させていただきました。

### ●委員長

はい、ありがとうございました。他にありませんでしょうか。おそらく、その個別の患者さんの疾病の情報あるいは年齢の情報を的確に全体としてつかまれて、データを各医療機関にも提供できるという意味では、非常に画期的なことをしてこられたという風に思いました。それともう一つ、感動したのはやっぱり病院に血液センターの方がその病院の輸血療法委員会に入られていたこと。ただ、正式なメンバーとして入ったわけではないんですね。

### ●面川先生

もちろんオブザーバーです。

### ●委員長

まあ、ひょっとしたら外部委員として正式になってもいいかなと思いましたがけれども、

それが非常に画期的だったと僕は印象を受けました。他にございませんでしょうか。はい、今後も面川先生にいてもらいますから、適宜コメントをいただきますのでよろしくをお願いします。どうもありがとうございました。

### 議題3：広島県の状況

#### ●委員長

それでは、議事を進めていきたいと思えます。今度は広島県の現状について、再確認してまいりたいと思えますので、広島県の方から御報告をお願いします。仲本さんよろしくをお願いします。

#### ●仲本委員

はい、県の薬務課の仲本でございます。これから、県の取り組みという演題がありますがけれども、若干、国の動きあるいは血液センターの動きも併せて5分程度でやれということなので、急いで話をさせてもらいたいと思えます。スライド次をお願いします。ここに書いてありますように、昭和61年に国の方から、血液製剤の適正使用に対するガイドラインが出ました。また、平成元年にはこの輸血療法の適正化に対するガイドラインというものが出ております。スライドをお願いします。そのガイドラインを改定するという形でこの輸血療法の実施に関する指針それと血液製剤の使用指針というものが出されました。これはまた17年に改訂になっております。さらにまた14年に、それまでの採血及び供血あっせん業取締法という法律を安全な血液製剤の安定供給の確保に関する法律に改定をしております。その法律の中の基本理念の中にやはり適正使用というものが謳われております。スライドをお願いします。まあ、先程のお話、鳥取県の方の御質問にもあったんですけれども、広島県では平成3年から21年にかけて、血液製剤使用に関する懇談会というものを設置しておりました。ただこの懇談会は学識経験者と関係団体のみを委員にしていたということでございます。また、懇談会の事業の一環として、こういったシンポジウムなども開催してきました。それとはまた別に、血液センターの方で懇話会というものを開催をしております。21年の2月にこの懇談会の中で、合同輸血療法委員会を設置しようという提言がなされました。そして、今年の2月に情報交換会を開催したということでございます。スライドをお願いします。繰り返しになりますけれども、広島県の血液製剤使用に関する懇談会で今回の合同輸血療法委員会を設置することについて、各委員の了解を得たと、さらに委員としてがん拠点病院を加えた方がいいという提言がなされ、今回そういった病院に声を掛けさせていただいたということでございます。それから、先程の繰り返しですけれども、今年の2月に情報交換会をして、その時に医療機関の代表の方にも来ていただいて、今回の合同輸血療法委員会を設置しようという合意を得たということです。スライドをお願いします。それを今までの図式化したものがこれです。広島県としては血液製剤に関する懇談会、それから血液センターは懇話会というものをやっていて、これを解消して発展させて合同輸血療法委員会を設置

させていただいたということでございます。以上でございます。

●委員長

はい、どうもありがとうございました。今の御発表に何か質問はございませんか。はい、手短にお願いします。

●鳥取県血液センター所長

鳥取センターの井上ですが、結局行政の方はどうしても予算がつかないと出来ないと言いますか、そういうことになると思いますが、鳥取県の場合それを今のを変えようと思えば色々予算を付けるのが必要になると。本来これは行政が主体となって、血液センターは付随すると言いますか、ついていくような格好が本来望ましいのではないかと思います。今回広島県の場合はですね、予算的な裏付けは、血液センターと合同になってされると、予算的な裏付けはどういう風になっておりますでしょうか。

●仲本委員

今おっしゃられた、今回のこの合同輸血療法委員会もですね、県が出している部分と血液センターが出している部分と、両者それぞれ予算取りをしてやっているということですね。

●委員長

裏付けはやはり平成14年の血液法ということになってくるんですかね。血液事業そのものに国、地方自治体の義務付けによって行われたと。

●仲本委員

一つは平成13年にですね、国の委託事業を受けた流れがございまして、受託事業が無くなったんですけれども、県としても単県でもやりたいということで予算要求してやってきて、今回、全額というわけにはなかなかいかなかったんですけれども、血液センターと合同という形で県も若干予算がついたということでございます。

●委員長

はい、ありがとうございました。では、次に血液センターの方から資料4 献血者の推移と供給状況と題しまして、沖田先生からお話しをお願いします。

●沖田委員（広島県赤十字血液センター所長）

それでは、手短に最近の血液センターの動きをお話しします。次のスライドをお願いします。最初に今、進んでおります血液事業の広範な運営体制の問題についてお話しいたします。そこにありますように、安全な血液を供給する、それから安定的に供給する、それから事業の効率化を行う、健全な経営基盤を確立するというところで、国民に信頼される持続可能な血液事業の体制を現在目指して、色々な方策がなされております。次、お願いします。それで、当面来年の4月を目処に、全国の血液事業を、現在は県単位で行われておりますが、このように7つのブロックに分けて、集約再編成を行っております。中四国は広島にブロックセンターが置かれまして、色々な事業を推進的に行っていくという形になっております。次のスライドをお願いします。現在、中四国ブロック血

液センターと、それから広島県の赤十字血液センターの合同の建物が建築されておりました、上のブロックセンターでは中四国 9 県の検査及び製剤の業務集約を行う、それからブロック内の事業運営のトータル的なマネージメントを行うと、下は従来通り採血それから医療機関への供給を行うというような機能を持つ、こういうブロックセンターと地域センターが一緒になった建物を今、建築中でございます。次お願いします。これがひとつの見取り図でございまして、元安川のそばに 6 階建の建物を建設中でございます。来年の 5 月に完成する予定になっておりました、右側の 2 階建ての建物がございますが、これは非常にユニークな建物だと思うんですが、情報発信センターというのを作りましたですね、これは特に小学校高学年から中学生辺りを中心に、将来の献血をしていただける方に色々な情報を流すと、御父兄の方ももちろん一般の方にもおいでいただくんですけども、献血あるいは輸血に関する色々な情報を発信するセンターにしたいと考えております。次お願いします。一つのモデルですけども、一番上はですね、ミクロの決死圏という映画が 40 年くらい前にありましたけれども、そういうイメージで 3D の画像を使いまして、我々が血管の中に入って行ってですね、血球がどういう役割をしているか、血小板がどういう役割をしているかというようなことをですね、まずその皆さんに見ていただくというような設備を作っております。それから、その次は実際に製剤とか検査がどういう風に行われているか、次はその実際にですね、献血の情報を 1 階に降りてみていただく。その時に、献血バスの内部をしつらえましたような構造を作りまして、実際にベットに寝ていただいて、子供たちに模擬献血というようなことをやっていただくというようなことを今考えております。さらには実際に腕の模型を使いましてですね、針を刺していただくというようなこともちょっとやったらどうか。ヒトを使うわけにはいきませんので、実際の模型を使った、今採血課が新人教育に使っております腕の模型を使ってですね、実際に針を刺すような、針がうまく入れば血液が出るような模型があるようでして、そういうものを使ってそういう体験をしていただくこと。楽しみながら献血の知識を学ぶというようなことを考えております。それから、一番下に総合的にですね、実際に輸血を受けられた患者様がですね、どういう風な形で皆さんに感謝をしているかと、今までは一方的な形での血液を下さいという情報しかありませんでしたけれども、皆さんが献血したものがどういう風に感謝されているか、喜んでいただいているかということの情報を流すというようなことも考えております。次お願いします。それからもう一つ、元安川にリバーサイドテラスという市民の方に開放するような場所を作ってですね、ここで色々な催しをやったり、夏になったら夜店みたいなものをですね、町内会に開放するというような構想も出ております。次お願いします。現在、建物が建設中ございまして、来年の 5 月には完成する予定でございますので、ぜひ皆様方も見学においで下さいませ。献血者数と献血量の推移で、これは皆さんご存じかとは思いますが、全体的に 61 年を境に献血者が減っております。それから、一番下の紫色の 200mL が最近減っておりまして、赤の 400mL が主体となってきております。血小



板数は黄色のあのような動きをしておりますが、全体の献血者数は61年ごろは900万人近くありましたが、現在は500万人前後というような、献血者の減少が全国的に非常なレベルで際立っております。次お願いします。特に年代別にですね、16歳から19歳、あるいは20歳から29歳の若年者層の減少が非常に際立ってきております。次お願いします。広島県ではこれは200mLが先程も言いましたように18年度を境にだんだん減ってきておりまして、14年度は1000人当たり11くらいでしたが、22年度が1.46まで減ってきておりまして、非常に200mLの減少が目立ってきております。400mLがですね、14年度から比べますと22年度には8000人くらいの数が増えてきておりまして、400mLが主体になってきております。これは皆様方の協力のおかげでございます。成分献血では、これは非常に目立った特徴で、成分献血が全国でトップになっております。これは主体は血小板でございますが、やはり非常に医療機関の機能によってですね、こういう状況が起こっております。それから、製剤化と製剤の供給状況でございますが、これは赤血球製剤、血小板製剤の状況でございますが、血小板製剤が非常に伸びております。これはやはり高齢化に伴う血小板の需要が増えて来ていると、言うような状況でございます。大体18年度に比べて37%くらい現在増えてきております。血液製剤別の供給状況でございますが、全体的に少しずつ増えてきておりますし、先程言いましたように、血小板を中心とした成分製剤がですね、増えてきております。今後の課題としまして、献血可能人口の減少によって、献血者数は長期的には非常に減少傾向になりまして、10年後くらいには100万人くらいの不足が起きると言うようなことで、これをどうするかということ。それから輸血用血液の需要は増加傾向になっております。特に高齢化による使用量の増加、それから、需給と供給のバランスを崩さない努力として、期限切れの抑制、さらなる適正使用の推進というようなことが課題になっております。ぜひ、皆様方の御協力と御支援をお願いします。それからもう一つ、最後でございますが、今から血液センターの側からも慶応大学の伊藤教授からお借りした言葉でございますが、献血というのは大きな医療という流れの中で非常に源泉に近いと言いますか、まだちょろちょろと水が流れている疾病の原点に立つようなものだろうと思うんですね。そこで、疾病の早期発見あるいは早期の治療、これができれば終末的な病気の発生というのはかなり抑えられるのではないかと。そのためには、やはり今の献血時のデータ、あるいは色々な所見を積極的に利用して、検診あるいは特定検診などに利用していただく、特に、若い人の成人病予防といったものに使えるのではないかとというような考えを持っておりまして、ぜひこういうものも三位一体となって、皆様方と進めていきたいと考えております。以上でございます。

#### 議題4：年間活動計画

##### ●委員長

ありがとうございました。特にこれは御質問は無いかなと思っております。もしあれば、

後でお願いします。どうもありがとうございました。それでは進めてまいりたいと思います。本年のこの委員会の活動計画ということでお話ししたいと思います。資料5を出して下さい。資料5は今年度の活動計画といったことをございますけれども、先程少しお話しがありましたけれども、厚労省の血液製剤使用適正化方策研究事業というのが面川先生からも御紹介がありました。これについて、今まで本県は無かったんですけれども、各県の合同輸血療法委員会の活動にこの血液製剤の使用適正化に向けた取り組みをしろということでございまして、大体毎年10件程度採択されているということです。これが締め切りが先程お話しがありましたけれども6月3日であったために、皆様方この委員会の中で本来は御承認いただきたかったんですけれども、先にもうお出しすることにいたしました。資料3の中、次のところを見ていただきますとわかりますけれども、研究者の欄には参加予定としまして、私を代表者といたしまして、学識経験者としまして今日来ていただきました方に仮にお名前を入れさせていただいております。事前に御本人には了解いただいております。事後報告となりますけれども、こういう形でこの委員会から応募したということになりますけれども、事後報告ですが、御了承いただきたいと思っております。いかがでございましょうか。

○一同拍手

●委員長

はい、ありがとうございました。一応、応募したということでございまして、何件中の何位になるのか、それとも落ちてしまうのかは採択中でございまして、よくわかりません。この件に関しては広大の田中教授に実質的にいろいろ御世話いただくということにしております。内容は、後御確認ください。最初ですから県内のアンケート調査から始めていきまして、今後の課題を探っていきたくて考えております。また、詳細に関しては少し幹事会を作って検討したいと考えております。次に参りまして、二つ目、研修会ということを考えております。先程、面川先生からも少しモデルを見せていただきました。時期的には大体来年の1月頃を考えて、広島市内で考えております。形としましても、講師をお呼びしてお話しをお伺いするとともに、県内の医療機関での取り組みをいくつかお願いして発表していただくということを考えて、構成したいと思っております。具体的な内容について、またスケジュールとともにですね、後で幹事会で検討したいと思っております。この幹事会での検討状況につきましては、直接会ってお話しするとともに、後はEメールを基に進めていきたいと思っております。この件に関しまして、皆さん方のほうから何か御質問か御意見ありましたらいかがでしょうか。特にないでしょうか。県のほうから何か補足ございますでしょうか。(なし)結構ですか。ありがとうございました。ということで、時間的にちょうど予定になりました。ここに書いてあるスケジュールより2分早いんですけれども、順調に進みました。以上を持ちまして本日の会議をこれで終わりたいと思います。委員の皆さん方には長時間大変ありがとうございました。皆さん方のお力添えをいただきまして、今後とも輸血用血液製剤の適正使用の

推進、そして輸血医療の標準化ということ目指していきたいと思います。特にこの委員会ではですね、輸血医療の標準化ということをかかなり強く意識してやっていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。このあと、事務局の方にお返ししたいと思います。

### 3 閉会

#### ●事務局

高田先生、ありがとうございました。皆様方も大変お疲れさまでした。最後に閉会に当たりまして、県の薬務課の仲本課長から御挨拶申し上げます。

#### ●仲本委員

今日は、本当にお忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございました。また、秋田県赤十字血液センターの面川先生に本当にいいお話しをしていただきまして、今後の我々の活動に、非常に参考になるお話をいただきまして、本当にありがとうございました。記念すべき第1回の合同輸血療法委員会が有意義なものになったと思います。今後とも高田委員長をはじめ、各委員それから各役員の方々の御協力によりまして、この合同輸血療法委員会をいいものにしていきたいという風に思っております。なお、今日実はテレビ新広島が入ってございましたけれども、今日の夕方6時前のニュースで流すという風に言っておられましたので、付け加えさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。

#### ●事務局

皆様方、本日は大変ありがとうございました。これにて本日の第1回合同輸血療法委員会を閉会させていただきます。